522　中央大学学員会秋季総会

〔『法学新報』第28巻11（325）号　大正7年12月1日〕

○中央大学学員会秋季総会　中央大学学員会は去月十日午後五時より母校大講堂に於て先般新に任官せられたる諸氏の歓迎を兼ね秋季総会を開催したるか夜来の雨霽れて天気晴朗殊に小春日和なりしかは出席者頗る多かりき一同著席するや学員会理事長原法学博士は起ちて本日横田法制局長官を除く外は已むなき事情の為め欠席の余儀なきに至りしは諸君と共に頗る遺憾とする所なり横田君は本学生粋の卒業生にして嘗て故星亨氏の門下生たり其野に在るや弁護士として名声あり又一面実業に従事して多大の成功を為したりと雖も是元より同君の素志にあらすして終極の目的は実に政治にありしなり今や宿望の一端に到達せられ法制局に長官と為りたるか軈ては其抱懐を展ふることを得ん而して君や最も能く星氏の衣鉢を伝へたるもの以て先師を顕はし自己の名を揚くるの日期して待つへきなり吾人は衷心より同君の為めに祝するものなり云云と述へられ次に横田君は拍子（ママ）に迎へられ壇上の人と為り我邦法曹の明星とも仰かるる原博士よりの頌辞は有難く拝受すへき筈なれと弁護士及ひ実業界に成功せりと謂ふも何等の証拠なき故如何に原先生の言なれはとて絶対に否認せさる能はす但横田の本領は政治に在りと謂ふに至りては之を否定することを得すと一番の諧謔を交へて満場を哄笑せしめ法制局長官なとの微微たる官吏にては経綸の一部も行ふ能はさるも只管犠牲的精神を以て事に当り以て諸君の期待に背かさらんことを期すへく又兎に角自分か此地位に登り得たるは全く学校の賜なれは能ふ限り母校に尽すへき旨を述へて喝采裡に降壇せられ次て三宅碩夫氏の祝詞あり終て附議事項中（一）理事及ひ評議員改選の件は学長の指名に委ぬること（二）徳丸公重氏を学員に推選すること（三）評議員を八十名に増員することは孰も満場異議なく之を可決し歓談久うして午後九時頃散会したりしか唯中橋徳五郎、古賀廉造、犬塚勝太郎、中西清一の諸氏か差支の為め欠席せられたるは一同の遺憾とする所なり当日の出席者は正賓横田千之助氏の外井上敬吉、石原毛登馬、稲木重俊、井上武八、岩田匡彦、稲木繁太郎、伊東新九郎、今

幡西衛、一又安平、井上豊太郎、池田清秋、岩崎勝三郎、稲葉治良、石垣子賢、岩崎眞、岩淵秀男、伊藤俊、岩井彌三郎、井上勝馬、馬場愿治、原嘉道、林頼三郎、花本福次郎、濱野徹太郎、羽田彦四郎、馬場信一、西川太重郎、西野其弟、細川祐平、保坂榮之丞、堀竹雄、細田謙藏、穗積儀一、細野繁勝、戸田俊夫、千葉彦治、千葉良胤、岡野敬次郎、小倉敬止、奥田良秋、大石恒久、尾川幾太郎、小田信次郎、大井俊嶺、大松直重、及川故作、和田世民、渡邊福三郎、渡邊新一、河野秀男、加藤熊一郎、河島臺藏、龜山要、笠原文太郎、神田常吉、川手忠義、河合健三、片山秀樹、川越憲雄、粕川保三、横田好實、横田民造、米津藤一、吉澤直、横山規一、武田明、高窪喜八郎、武田鬼十郎、高木銑次郎、高木善行、田邊喜一、竹内靜三、谷村唯一、田村貞、高宮誠、竹下順一、多田登、田村芳造、土屋義行、辻嵇雄、辻本友次郎、七邊格太郎、中村弘、並木關次郎、中口末松、長島毅、中村德美、中島德次、羅坰、村治三夫、植村俊平、梅原喜太郎、内田清吉、宇川五郎治、野島勝七、野口源伍、黒田穰、久保秀三、黒川博、山浦橋馬、山田三郎、山崎今朝六、八木澤源藏、山本角之助、藥丸兼吉、松本烝治、松井政一郎、前田久次郎、松林治義、松岡高明、增田傳次郎、松澤卓規、前田顯一郎、俣野健輔、松崎龜之助、藤沼光、小松林藏、小山哲四郎、腰山長吉、後藤傳兵衛、小島愛三郎、海老原重、新井要太郎、東兵右衛門、新清二、天野正厚、朝比奈孝一、安藤秀雄、天野德也、佐藤三吾、齋藤又郎、佐竹三吾、澤村直、佐藤博、三宮亦男、佐藤太眞伎、嵯峨次郎、佐藤正之、木下謙次郎、木付綱麿、木村兼孝、木村茂作、柚木勘五郎、三宅碩夫、宮澤高義、宮澤武七、宮地進、三野頼次、三根谷實藏、三谷錦太郎、宮武能孝、宮古豊啓、宮崎三郎、三ツ石壽男、鹽谷恒太郎、島野金吾、重信喜太郎、志賀三行、鹽坂雄策、篠崎仙司、城谷一誠、柴田甲四郎、白旗松之助、柴田廣吉、樋口兵次郎、樋貝詮三、平松市藏、平田勝太郎、森本邦治郎、諸留勇助、森六太郎、瀬下清通、鈴木敬義、鈴木四郎、鈴木庄助、鈴木由之介の諸氏なりき